

冬季休業中の開館日； 12月21日(水)～12月28日(水) 8:30～16:45

冬のWINTER FES 好評開催中

第1弾

冬休みの貸出冊数がなんと5冊
まで（←3冊）増加!!

第2弾

ビブリオR 大賞発表
最優秀賞は1年1組 上城美優さんです。

第3弾

図書館賞発表!!
学期ごとにクラス表彰。
30冊以上借りた生徒は学年末に表彰あり。



1年3組



2年2組



2年1組

クラス別図書貸出平均冊数（7月12日～12月9日現在）

<h1 style="margin: 0;">No.1</h1>	本のタイトル	屍人荘の殺人
	作者	今村 昌弘
	<p>私が紹介する小説は今村昌弘著「屍人荘の殺人」です。</p> <p>本書は、大学のミステリ愛好会会長の「明智」。メンバーの「葉村」。探偵少女の「剣崎」の3人が映画研究部の夏合宿に参加するためにペンションに向かうところから始まります。最初は部に囁かれている悪い噂を解決するために参加したのですが、後に予想もしなかった出来事に巻き込まれてしまうのです。それは、大量のゾンビ（屍人）にペンションを取り囲まれてしまうということでした。さらにそこで二重密室殺人が起きてしまいました。それだけでは収まらず、立て続けに人が殺されてしまいます。背景に大量のゾンビがいる中でどのように事件を解決していくか、犯人は誰なのか、なぜ事件を起こしたのかなど、たくさん見所があります。</p> <p>ゾンビといえば「動きが鈍く、体が腐っており、うめき声をあげている」といった特徴が挙げられます。しかし、ゾンビがこの世に実在しているわけもなく、私たちにはあまり現実味がないかもかもしれません。ですが、情景の細かな表現や人物の心情などが生々しく伝わってくるので、読者である私も手に汗握る展開にワクワクしました。</p> <p>たくさん人がいなくなっていく中での葉村の成長や、最後に明かされる意外な犯人など、読んでいて少しも飽きない作品でした。続編も出ているため、別の舞台での別の緊張感も味わえます。「パニックホラー」「クローズドサークル」「非現実的な物語」が好きな人におすすめの作品です。少しでも気になった人はぜひ読んでみてください。</p>	

ROOM 31
 気になる
 新刊紹介コーナー

ビブリオ・ライティング 優秀賞 1年2組 三瀬由貴 3年1組 岡田優季

死産や流産についてのノンフィクション。読んでいなくても苦しいのに当事者の気持ちは計り知れません。お腹の中で亡くなった子を自然分娩で産まなければならないというのも本当につらいと思いました。

日本という恵まれた国にいるからか、妊娠＝出産と自分の中で捉えていた部分があったけど、生まれてくる命は本当に奇跡的なことだと考えを改めることができました。この本を読むと、自分が今生きていることにもっと感謝できると思います。

31R 兵頭優羅

